

## 子供の読書を推進する活動の実践内容

### 幼保連携型認定こども園 にいだこども園

- ・園の蔵書数:約 4,000 冊
- ・読書担当保育士等の配置:各学年1名 計6名
- ・園児一人あたりの年間貸出冊数:約 10 冊

#### 【概要】

設立当初から、絵本を園生活の中心に据え、園オリジナルの大型紙芝居の作成や、様々な形での読み聞かせを行っている。また、絵本作家キヨノサチコ氏との交流も行っていった。教育・保育の重点目標の最初に「お話を楽しむ活動」を掲げ、子どもたちの心を豊かに育てることをねらいとしている。各学年1名の職員からなる「絵本担当係」を組織し、絵本の選定や管理、絵本に関する行事、絵本に関する日常の活動を進めている。



3歳未満児においては、子どもが自由に手に取って読めるように工夫した絵本コーナーを設けているほか、様々な時間帯に読み聞かせを行っている。3歳以上児においては、各学年に絵本コーナー「絵本の家」を設け、図鑑、物語などに整理して、子どもたちが自由に読めるようにしている。毎日職員による複数回の読み聞かせのほか、園オリジナルの大型紙芝居の読み聞かせや、保護者・読み聞かせグループ

による読み聞かせ等、年間を通して様々な形で読書活動を実践している。また、通園していない子どもたちが集う地域の子育てグループに職員が出向いて読み聞かせを行い、地域の子どもたちが低年齢のうちから絵本に親しめる活動を実践している。

これらの活動は学年・年齢を越えて子どもたちが一緒に絵本を楽しむことにつながっており、また、普段の遊びの中に絵本やお話の内容を生かしている様子が見られるなど、子どもたちの遊びの充実にも寄与している。

## 【各活動内容の概要】

### 1. 「おはなしタイム」

毎日、各学級で担任が朝や帰りの時間帯に絵本や紙芝居の読み聞かせを行っているほか、預かり保育の中でも担当職員が絵本等の読み聞かせを行っており、一日の中で何度も絵本やお話に親しむ機会が設けられている。また、年間を通して様々な行事の中でその行事に関連



した読み聞かせを行っているほか、絵本だけではなく大型紙芝居、人形劇、職員による劇など多様な手法でお話の面白さに触れる機会が設けられている。

絵本担当系の職員を中心にして、読み聞かせについて園内で研修を行うとともに、園外の読み聞かせ団体との交流も図っており、全ての職員が適切な読み聞かせができるように取り組んでいる。

### 2. 「大型紙芝居『ふきむすめ』の読み聞かせと関連活動」

園章にもなっている地元の特産物「落」をテーマとして、大型紙芝居「ふきむすめ」を作成しており、毎年地域の方から「仁井田落」の鉢植えが寄贈された際に行う園行事「ふきっこ集会」において、読み聞かせを行っている。

この園行事では、読み聞かせのほか、落についてのクイズをしたりして、子どもたちが落に興味・関心をもてるような様々な活動を行っている。こうした活動を通して、地元の特産物を知り、地域の方々と触れ合うことにより、自分たちが暮らしている地域への関心や親しみをもてるよう取り組んでいる。



幼保連携型認定こども園 にいだこども園 ホームページ

<http://www3.plala.or.jp/niidayou/>